

感謝、感激、お願

——日本幼児飛行機獻納貯金第一期御報告に添へて——

倉橋惣三

日本幼児飛行機獻納に就ては、提唱などといふのが初めからおこがましいことでした。こうした心持ちは、時局を知るもの、幼児の純な心を知るものには、ごなたにでも疾くにあることで、本會はそれを取次いただけに過ぎません。それをいゝことを言ひ出して呉れたと言つて下さつた方々の多いのには、却つて痛み入りました。殊

に、貴い金錢のことですから念の爲に責任者として名を記しておいただけの私に對して、御苦勞など言つてよこして下さつた方々に對しては、なんとも、さかさまの至りで恐縮します。

それにしても、此の提唱(ご)が、如何に皆さん方のお心持ちに合致したかは、澤山のお手紙によつて、今更驚いた位でした。去年の夏の講習會の終りの日に、豫て數氏

と内議してゐた此の計畫を發言した時、あの手に近い満場の方々の送られた賛同の拍手の音が、今では全國から聞えて來るやうの氣がします。

御送金に添へられた長い短いお言葉は素より一つ殘らず拜見しました。そして、私は數へきれない誠心に對する感謝と感激で胸一ぱいでした。殊にそれがたゞ先生方の御自身の誠心のみでなく、愛する幼児達の心を汲上げ、大切な幼児達の心を引上げてやらうとする、どこまでも保育奉公の眞髓への徹底にはしみじみ敬意を感じました。

○ 寄せられた誠心は全國に亘りました、朝鮮、臺灣及び熱河省の遠きからも特に送られました。第一期締切に對して、電報爲替

を用ゐられた方も少くありませんでした。なかには、遅れて參加出來なかつたら、私が幼児達に濟まんと思ふの念に驅られてゐるとさへ、言ひ添へて下さつた方がありました。一錢と雖もおるそかにお受け取り出來ません。

此の計畫の性質上、幼児の貯金が中心であることはいふまでもありませんが、それがまた一々貴いものばかりでした。幼児の獻金といつても家庭が我子の心もちを實現させて下さるのですが、中には幼児のいろいろの勤勞や善行を金錢にかへて獻金させられた例も少なからずありました。幼児に川堤や海岸の松葉拾ひをさせてそれを家に持ち歸らせ、それを以て獻金させられた例もありました。幼児の間食がまん、家の御用、いゝ行ひの約束實行等を以て、獻金させられた例もありました。

- 錢 孝坊のお薬もらひ
- 錢 お父ちやんの肩うち
- 錢 お母ちやんの肩うち
- 錢 おるすばん
- 錢 お庭掃除
- 錢 お部屋掃除
- 錢

お母ちゃんにもらふ 六錢

計 三十錢

といつた可愛いものがありました。それからまた幼児に街頭獻金募集をさせられた熱心の例もありました。又「之は私のお(小)使の一部です少しですけれども飛行機のためにして下さいませ」(滿洲の祖母七十三歳)

と書き添へて孫の獻金に援助せられた例もありました。一錢と雖もおるそかにお取扱ひ出来ませぬ。

斯うして、感謝と感激とを以て數へた總額は別項御報告の通りの多額に達しまし

飛行機獻金と幼児の努力

宇都宮幼稚園

幼児の教育十一月號で飛行機納貯金の提唱をみました次の日の朝、幼児にそのお話をしました處、全幼児が眼をかゞやかせて僕等も私達もお小使を使はないで貯金する。澤山貯金して澤山の飛行機を作つて来

た。協會はこれに勵まされて、豫定通りつづいて第二期提唱をいたし、金八萬圓を目ざしてその總集積を以て軍用飛行機「日本幼児號」の獻納に、全国幼稚園の幼児達と先生方と保護者諸君との誠心を具體化し得る日を期してゐます。幼児達が「幼児號」の飛ぶ日を空を仰ぎ、歌のやうに歌つて待つてゐることを書き送られた方が少なくありませんでしたが、ほんとうに是非早くその日を實現したいものであります。お手紙の中にも書いてありました通り「つくりませうみんなで愛國機」。實につくりませう、みんなです。つくりませう、みんなです、つくりませう、みんなです、愛國機日本幼児號。

石 井 方 子

英をやつつけるんだと、子供ながらその決意の程は涙ぐましい程でした。そこで十二月の大詔奉戴日から始める事といたしました。

貯金はかうして二月二十五日迄、毎日前

日使はなかつたお小使を預りましたその日の分を銀行へ預金しておきました。獻金は眞心ですのですから額の多少は論じませんが、一臺でも多く、一翼でも多くなければならない現在の時局、少しでも多額の獻金をせねばならないとの念願の下に貯金と同時に獻金の街頭募集をする事にいたしました。

場所は當市氏神二荒神社前としました。

ここは市内目抜の繁華街を前左右の三方に控えて居りまして人跡の絶える時がありません。十二月の大詔奉戴日に先づ年長組六十四名が二組に分れて之に當る事とし、飛行機(日本幼児號)獻金募集、宇都宮幼稚園と大書した旗を立て、各兒にも同様の標をかきさせ、小箱を持たせ、七八名宛の組として四ヶ所に立たせ、保姆或は當園幹事が各組に一人つゞいて居りました。

五錢貨、十錢貨を七人居れば七人に八人居れば八人に漏れなく入れて行つて下さる人が多く、中には五十錢札を全部の兒に入れて下さる人も澤山ありました。小さな兒が一錢二錢を入れて行く涙ぐましい風景も幾度となく見せられました。獻金して下さい